

燕労災病院の理念

◎働く人々と、地域の人々のために最善の医療を目指します。

病院の基本方針

◎安全で質の高い医療の提供を目指します。

◎勤労者の健康管理を支援します。

◎医療に関する教育・研修を支援します。

◎地域の人々の健康を守り、福祉に寄与します。

目次:

*東北地方太平洋沖地震・宮城県仙台市へ医療救護班を派遣	1
*市民・勤労者医学講話を開催	2
*看護ふれあいフェアを開催	3
*編集部より	3
*外来診療科別担当医師表	4

燕ろうさいつうしん

【東北地方太平洋沖地震・宮城県仙台市へ医療救護班を派遣(4/20~4/22)】

～活動報告：外科部長 清水 孝王～

現地に到着後、まず被災地の現場周辺を案内していただいた。あらゆるものが根こそぎ波にさらわれた現状はとても悲惨なものでした。ただ長岡の震災の時とは異なり、津波被害を受けとめてくれた高速道路を境界として、全然別の光景でした。

仙台の街中はすでに1ヶ月半経過していることもあり、通勤ラッシュ・渋滞、学校生活など、ほぼ日常を取り戻していました。

前任の東京労災病院チームの引き継ぎが、全体・各部署としっかり行われたため、翌日から大きなトラブルもなくスムーズに現地活動に入れました。

担当の2日間とも、まず朝8時に東北労災病院を出発し、9時から若林区役所で保健師さん達との全体ミーティングが行われました。ここで、当日の活動スケジュールが相談されます。医療チームは、その後順次、一日をかけて、担当地区のすべての避難所を回り、各避難所の保健師さんと連絡を取りながら、診療にあたりました。リハビリチームは、高齢者が昼間、避難所に多く残っているため、需要が多く、時間もかかるため別行動となりました。夜は、18時30分から20時30分まで開設されている、若林体育館の仮設診療所で、昼間復旧作業をされて戻ってくる避難所の方の診療にあたりました。すべてを終了して東北労災病院に戻るのは21時30分過ぎでした。2日目は次のチームとの引き継ぎがあるため、さらに遅くまで活動することになる。ちなみに活動報告書はその後で作成するため、大変でした。

医療チームの活動において、疾患の多くは、上気道炎・アレルギー疾患であった。サンビア仙台の避難所では、感染性胃腸炎の方が出たため、隔離、共同トイレの清潔化などの対処を早々に行ったため、今のところ



燕労災病院医療救護班



被災地の様子1

感染の拡大はみられていません。避難所には支援物資も多くあり、避難所生活をされている方の栄養状態は比較的良好であり、重篤な病状の方はほとんどいませんでした。ただ、昼食は余剰にあるため、多くの方が夕食または翌日の朝食として取り置く場合が多く、今後、食中毒など、気温が上がってからの保存に問題があると思われました。また、PTSD・不安・不眠といった精神疾患については、別動の「こころのケア」チームが3チームで精力的にカウンセリング活動を行っているため、十分フォローされてきています。

また震災直後と異なり、1ヶ月半経過しているため、現場の状況も大きく変化してきていた。避難所周囲の医療機関は順次、通常診療を再開してきており、さらには、地元開業医の医師たちも独自に避難所を巡回され、診療されているため、当チームとしては、＜押し売り治療＞はせず、かかりつけの病院での診療を促すように活動していきました。このため、今後は、医療チームとしての活動は需要がなくなってくるものと思われます。どちらかというとりハビリを中心とした活動の需要のほうが増えてくるものと思われます。

この2日間、当チームとしては、大きなトラブルもなく、充実した現地活動を行えたと思います。貴重な経験をさせていただきました。

最後に、仙台の被災地の桜は力強く咲いており、満開でした。一日も早い復興を祈念しています。



被災地の様子2



仙台の桜

【市民・勤労者医学講話を開催】

5月10日（火）の午後6時半から、燕労災病院外来ホールで神経内科菊川公紀部長による医学講話「めまいについて」が開催されました。

めまいとは、一般的に「目がまわること・目がくらむこと」と定義されています。頭痛と同様、日常生活でも体験することの多い症状のめまい。命に関わるものから命に関わらないものなど種類も多く、脳卒中や脳梗塞など関連する病気も多数あるそうです。そのため、診察にあたっては基本的にMRIを撮り、大事がないかどうかを診ているとのことでした。

また、めまいが起きている時には・・・

- ① 頭を動かさず、楽な姿勢をとる。
 - ② 衣服をゆるめて横になる。
 - ③ 静かな部屋で、目を閉じて安静にする。
 - ④ 心を安静に保つ。
- ①～④のことを行った後、早めに受診をしていただきたいとのことでした。



次回は7月5日（火）に「肺がんについて」を予定しております。ご聴講は無料ですので、この機会に是非お越し下さい♪

【看護ふれあいフェアを開催】 ～看護の日 院外イベント～

「忘れられない看護がある」をテーマに、5月14日(土)にチャレンジャー「なんじゃ村」前で恒例の看護ふれあいフェアを開催しました。当日は強風の影響で出足が心配されましたが、約180名の方にご来場いただきました。

身長体重測定・血管年齢測定をはじめ、骨強度測定・体脂肪測定・AED講習・健康相談など各ブースに多くの方が来場され、健康相談コーナーでは森岡医師が来場者の相談にあたり、みなさん真剣にお話を聞いていました。



血圧測定の様子



AED講習の様子

また、今年は「東日本大震災チャリティーミニフリーマーケット」も実施しました。皆様のご協力のおかげで、57,857円の売り上げとなりました。

この収益金は東日本大震災の義援金として有効に利用していただけるよう、燕市へ寄付いたしました。皆様のご協力、本当にありがとうございました。

5月12日は近代看護の基礎を築いたフローレンス＝ナイチンゲールの誕生日です。看護の心を分かち合いたいと、毎年この時期に看護ふれあいフェアを開催しております。

このような行事を通して、少しでも地域の皆様のお力になりたいと思っております。



看護フェアの様子



ミニフリーマーケットの様子

【編集部より】

県央地区にも、新緑がきれいな季節になってきましたね。体を動かすのに、最適な時期になってきたと思います。

最近、運動不足解消のために、冬の間に蓄えたお腹を揺らしながら散歩しています。散歩をしていると、日の光を浴びて鏡のように映る水田や、そよ風に揺れている木々の葉、青い空に向かって咲いている色とりどりの花など、様々な発見があります。皆さんも体を動かして、リフレッシュをしてみてくださいはいかがでしょうか。



(記：K)